

©創通エージェンシー・サンライズ

**MG**  
MASTER GRADE



# MG GUNDAM INSTRUCTION MOBILE SUIT ZION GE

パッケージの写真・イラストと商品とは、多少異なりますのでご了承ください。

**BANDAI**

BANDAI 1997 MADE IN JAPAN



MOBILE SUIT  
MS-14A

# GELGOOG

ZION GENERAL PURPOSETYPE  
MASS PRODUCTION MOBILE SUIT



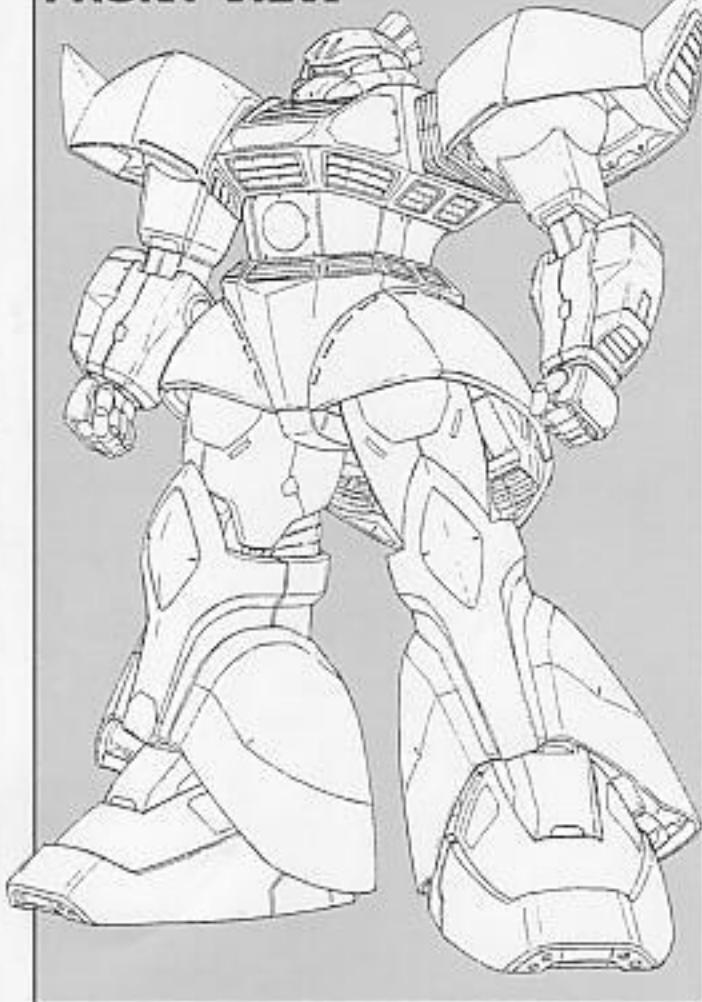
BANDAI 1997 MADE IN JAPAN

ジオン公国軍 汎用モビルスーツ  
MS-14A 「量産型ゲルググ」  
1/100SCALE  
マスターグレードモデル

Scanned by Dalong.net



## FRONT VIEW

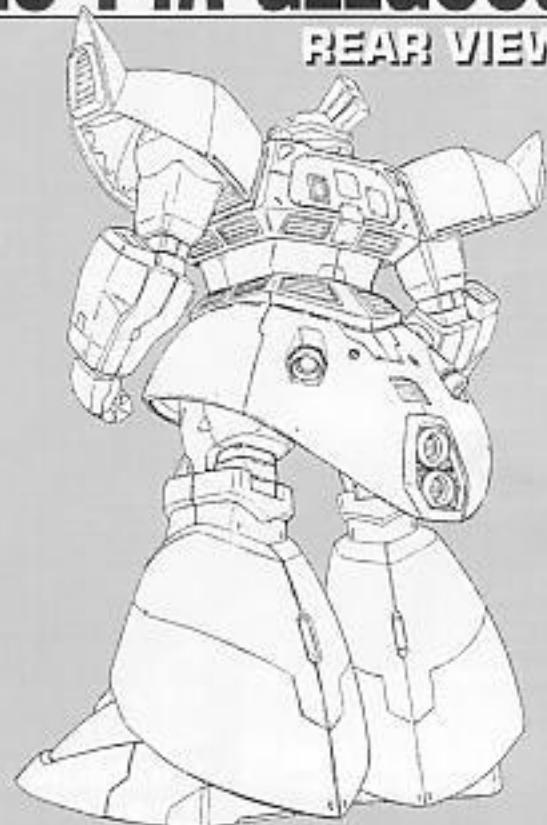


あるいは、ルウム戦役に至る戦闘において、公国軍がベテランパイロットの多くを喪失していなければ、一年戦争の結果は異なったものになっていたろうとも言われている。

ゲルググの誕生が遅れた大きな要因は、ビーム兵器の小型化が難航していたためであった。連邦軍が開発した「ビームライフル」に代表される「エネルギーCAPシステム」は、メガ粒子を捕捉寸前の状態で保持するという非常に特殊な技術であり、運用の巨大な工業力や技術力を背景として成立し得たテクノロジーであった。ビーム兵器そのものの技術差はほとんど存在しなかつたが、公国軍のMSは、基本的に「戦闘並みのビーム兵器」を付帯することは当初から放棄していた。なぜなら、強大な破壊力の携帯そのものは、核兵器によって実現されていたし、MS同士の戦闘自体、想定されではいなかったからである。しかし「核兵器」の使用は「南極条約」によって封じられてしまい、連邦軍は、公国軍の予想をはるかに上回る性能のMS「ガンダム」を開発、投入してきた。公国軍にしても、機動兵器とビーム兵器の運用を完全に断絶させていたわけではなかったが、いわゆる「ビーム兵器の小型化」は、MSクラスの開発技術そのものとは違う物であったし、膨大な基礎研究期間が必要となるため、MSそのものの誕生が優先されていた当時の状況から「MSとビーム兵器の融合」の発想はほとんどが棄却されていたのである。また、ビーム兵器の搭載を前提とした機動兵器は、おおむねMAの開発計画に統合されていたのも要因のひとつだと見えるだろう。ゲルググの先行量産型がロールアウトしたのは10月に入ってからだが、ビーム兵器の生産ラインが実働し始めたのは11月下旬だったと言われている。この期間内に懸念通りのビーム兵器を装備できた機体は少なく、普段乗車として、急遽、MA(モビルアーマー)用のデバイスを転用したC型パックなどが開発されたのである。ともあれ、ゲルググの開発が成功したことによって、公国軍は連邦軍と互角以上の戦力を投入することが可能となつた。そして、MS-14の開発が完了した段階で、各地のMS生産設備の多くがMS-14の生産に振り替えられることが決定していた。そのため、各地の工廠では生産が可能なバーツから先行して生産されており、このことからも、MS-14は、公国軍の次世代主力MSとして、多大な期待を抱いて開発されていたことが判る。

## MS-14A GELGOOG

### REAR VIEW



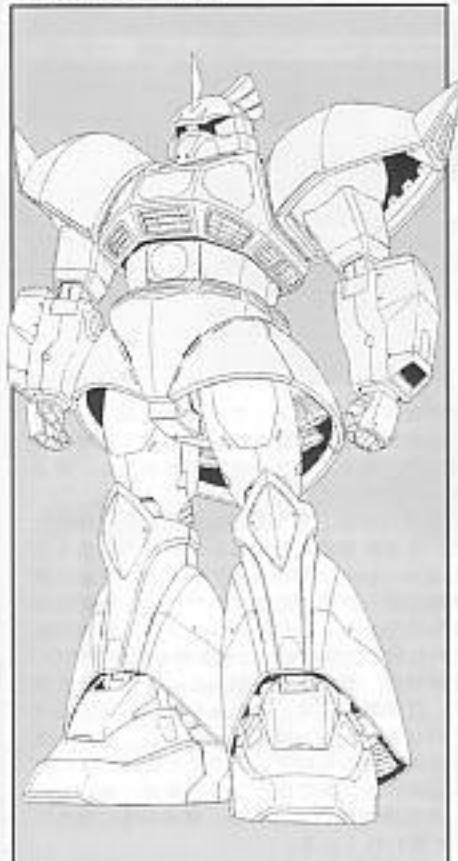
ザクの有用性と履地戦用MSの開発、実戦投入によって戦線を維持してきた公国軍にあって、次期主力MSの目処が立ったのは一年戦争末期のことであった。ゲルググは、ザクの後継機として、また、公国軍におけるMSの新たな標準機として開発された機体である。開発の前提として、ビーム兵器の搭載が検討され、その構造に対応した高出力のジェネレーターと、高い近接戦闘能力を有している。つまり、公国軍において本格的にMS戦闘を想定した初めての機体であり、近接戦闘、白兵戦闘能力に加え、ビーム兵器の標準装備によって、長距離戦闘にも対応する事が可能である。何よりも、搭載するビーム兵器の威力は絶大であり、戦闘並みの破壊力をこの機体にもたらしている。その総合能力は一年戦争期間中に量産されたMSの中では最高の完成度を持つ機体であると評価されている。ゲルググの名を冠する機体は、オサYMS-14として25機の先行量産型がロールアウトし、直ちに前線に配備された。そして充分な完熟訓練の猶予もなく、パイロットたちは新規機を駆って実戦の中で稼働データを本国に送り続けた。その稼働に際しては、構造上の大きな問題もなく、部分的な改修やレイアウトの整理といった、量産に移行するための多少の見直しをもって、YMS-14はMS-14という形式番号とともに生産ラインに乗りせられた。當時、連邦軍との主戦場は地球上から宇宙に移っており、ゲルググの生産及び配備は急務となっていた。ジョン本部、グラナダを始めとし、各地に点在するMS工廠のラインは、ほとんどすべてがゲルググの生産に切り替えられた。しかし、結局は予定された定数を満たすことは叶わず、ゲルググが戦略レベルで大量に参戦できたのは、一年戦争における最後の攻防となつた宇宙要塞ア・バオア・クー戦においてであり、多くの機体が学徒動員兵などの未熟なパイロットによって運用されたため、同機は確たる戦果を挙げるには至らなかつた。それでも、その基本性能は、一説によれば「ガンダム」をも凌駕しているとされ、優秀なパイロットのもとに適性に配備されていれば

MS-14ゲルググは、まず量産先行機として25機ほど生産された。それはYMS-14とも呼ばれるGIR系の機体がそうだったように、いわゆる各部隊のエースパイロットのうちに配備された。25機のうち1機はシャア・アズナブル大佐に、他の機体の多くはエース部隊に配備されたと言われている。そして、実戦データの収集が行われ、生産ラインにフィードバックされた。それに並行して生産性と機能向上のための若干の設計変更と共に、機能上の水準には幅が設けられることになった。これは、ユニット毎に規定の性能が確保されていれば、生産拠点毎に独自の工法や生産工程を用いても構わないというもので、事実上の「ノックダウン生産」を容認するという通達であった。公国軍の各工廠は、ゲルググへのライン転換以前の資材も有しており、緊急増産体制の展開に専念し、それらを有効利用すべく、この通達がなされたと思われる。つまり、例えばゲルググ以外の機体を前提として生産されていた資材や部品であっても一定以上の歩留まりと互換性が確保されてさえいれば、ゲルググの建造に充てても構わないというものであった。

そのため“ゲルググ”は、ビームライフルの搭載を見送ったCタイプや、分離して作られたパーツをベースとして独自の機体に組み上げた部隊などもあったため、開発が戦争末期であったにも関わらず、多くのバリエーションが存在することとなった。MS-15系の機体生産を予定していた工廠などは、スペック的に供用できるパーツを流用したり、独自のユニットを機体に盛り込んだりしている。さらに、MS-14とMS-15双方の長所を融合させ、公国軍の開発局からMS-17の開発コードとガルバーリティという名前を与えていたMSの開発計画などもあり、その機体のために部品の供給計画を先行して推進していた工廠もあった。

そのせいで、MS-17用の部品をもとに生産ラインを組んだMS-14系の機体なども何種類か存在することになった。それらは派生型としてのバリエーションタイプとは性質を異にしているが、ユニット毎に別の装備を持つ機体は多数存在する。つまり、生産拠点や配備された時期などによって、同一の機体であっても無数の仕様があると言つても過言ではないのである（ただし、終戦直前から直後にかけて撮影が確認されているJG型や、後のテラース紛争において多數運用されていたF型などの機体は、純然たる派生型として確認されている）。

## YMS-14



## MS-14B



## MS-14C



先行量産型の生産に前後して、いわゆるノーマル仕様のAタイプが83機、Bタイプが67機、Cタイプが15機生産されていたとされるものの、YMS-14に次いで生産されたのは、ビームライフルの開発の遅れなどの事情から、Cタイプがもっとも早くから配備されている。また、厳密な意味で“MS-14A”と呼べる機体自体の仕様を特定しにくいことも事実である。これらの数値は、あくまでもいくつかの資料の平均値であり、終戦時122機分に相当するCタイプの半組み立てパーツが確認されたと記録された資料も存在するのである。

ゲルググの両腕に装備されている補助ジェットエンジンは、大気圏内でも運用されることを前提に装備されていた。実際、装備した状態でアフリカ戦線などに何機かは配備されたものの、そのほとんどは実戦することなく、死闘されたか連邦軍に接収されたといわれている。この装備は、コロニー内戦闘などである程度の有用性は認められたものの、空間戦闘においてはデッドウェイトとなることが多かったため、JG型、F型共に撤去され、A型においても、その生産後期には近接戦闘用に火器ユニットに換装されていた。また、Cタイプなどのように、小型のシールドのような補助装置に換装されたものも多い。

JG型およびF型などは、共に空間戦闘用にセッティングされている機体であり、リアスカートには三基のバニーアユニットが増設されていて、頗る的な大推力による一撃離脱戦闘に効果を發揮する。これは、ゲルググタイプの後期生産型に共通して見られる特徴でもあり、公国軍においては終戦直前まで実戦データのフィードバックが行われていたと考えることができるだろう（実際、ゲルググの成功を受けて、他の機体の生産を行っていた工場に対しても設計改善が命じられ、それ以降に生産された機体は「第二期生産型」と呼ばれている）。また、背部パックパックも独自のものが装備され、プロペラントタンクによる単機あたりの作戦行動時間の拡大が図られている。このランドセルは、いわゆる高機動型ゲルググ用に開発されたD型パックを再設計したものとも見られるが、その開発期間を考えると、別途開発中であったものをセッティングし直し、ゲルググに充てたものとみるのが妥当だろう。

ゲルググは、誕生以来、一年戦争の終焉に至るまで最新鋭であり続け、そしてその進化は戦後も続いているのである。

Explanation

Parts name  
of MS-14AMS-14A  
Snap ShotHead &  
Arm Unit

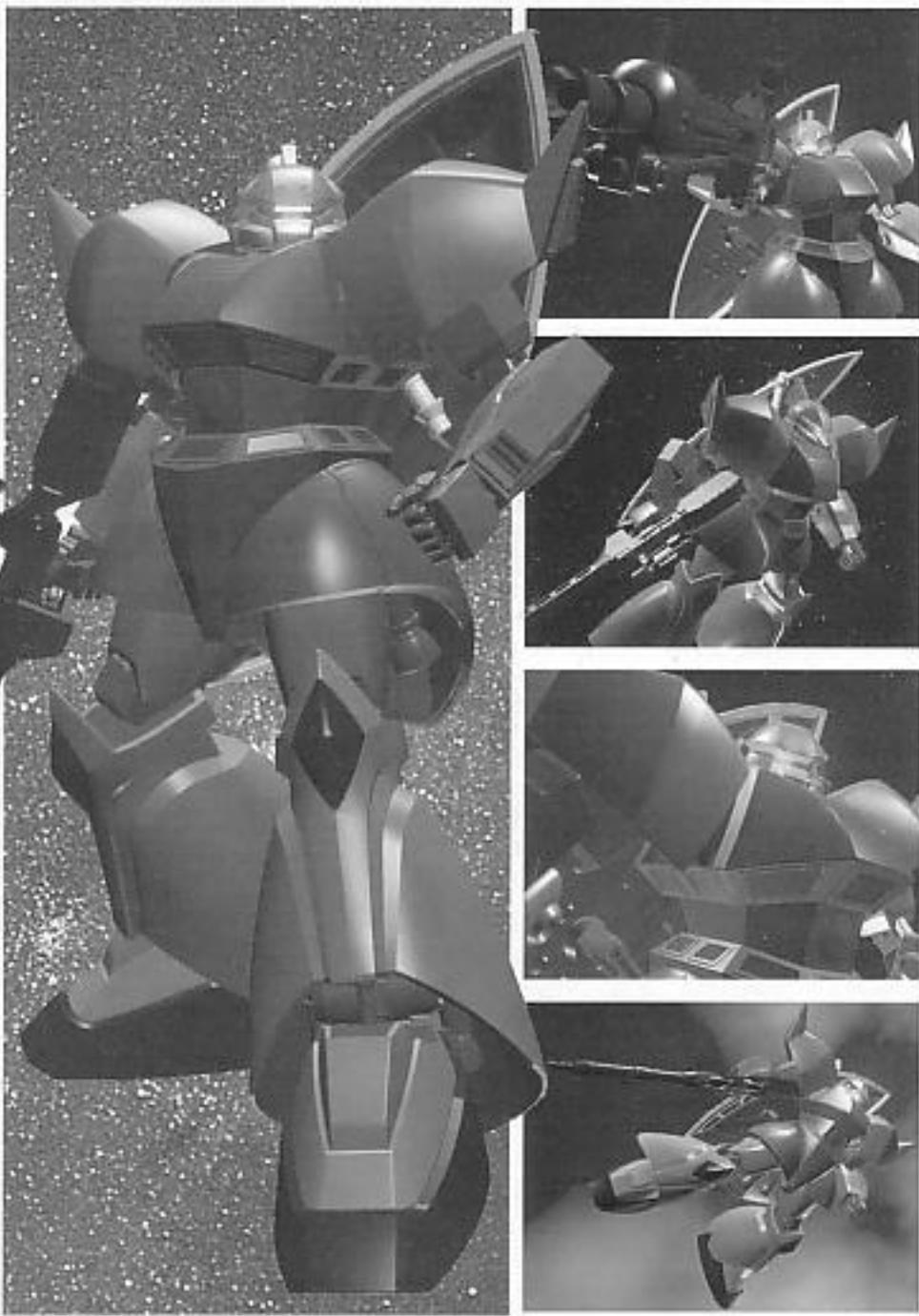
Weapons

Body

Final Assembly  
& Parts List

# MS-14 AGE GEL GOG

ZION GENERAL PURPOSE MOBILE SUIT  
DE MANUFACTURE DE MARS PRODUCTION MOBILE SUIT



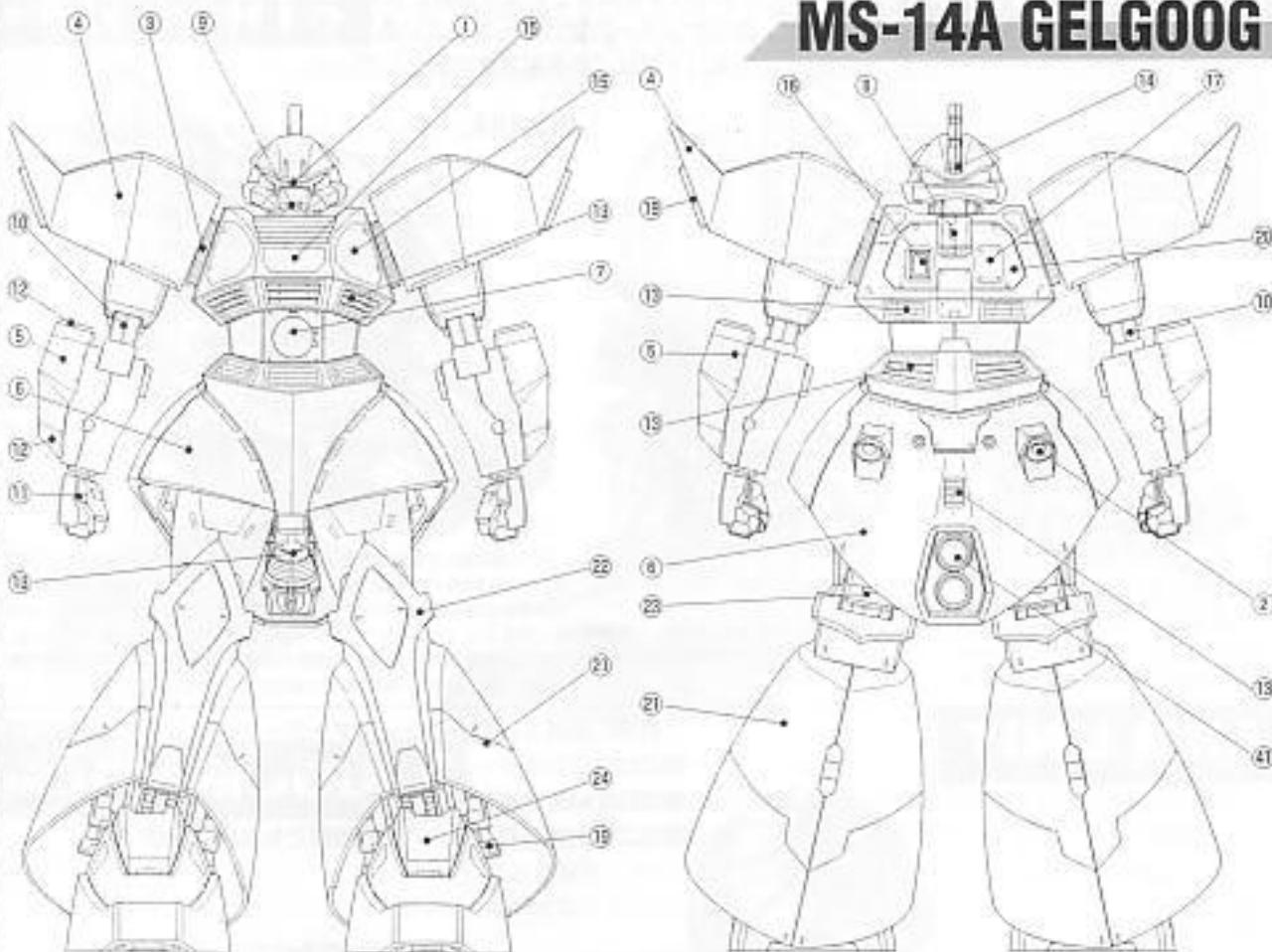
宇宙世紀0079年。宇宙植民都市サイド3はジオン公国を名乗り、地球連邦政府に独立戦争を挑んできた。公国軍は巨大な人型の機動兵器MS（モビルスーツ）を投入し、宣戰布告と共に地球周辺のラグランジュポイントに浮かぶアツの宇宙植民都市のうち、サイド1、2、4を襲撃した。さらに「ブリティッシュ作戦」と呼ばれるコロニー落としを敢行し、地球にも甚大な被害をもたらした。その後、サイド5領域で行われた「ルウム戦役」に至り、結果的に船人口の約半数を喪失させた両軍は、大量殺戮兵器（主にNBC兵器）の使用禁止や捕虜の待遇などを取り決めた「南極条約」を締結し、戦争は長期化。膠着状態に陥っていた。戦局を打開すべく、連邦軍もMS「ガンダム」を開発。残存兵力を結集して、公国の支配地域において大規模な反対作戦を展開した。実質的に地球上の公国軍勢力を一掃した「オデッサ作戦」や、連邦軍の本拠地を攻略すべく公国軍が展開した「ジャブロー攻略戦」などを経て、連邦軍はMSの量産に成功し、ジオン公国本圏に攻めこまんとしていた。

地球上における戦力の瓦解に伴い、公国軍は本国と月面都市

グラナダ、そして宇宙要塞ア・バオア・クーとを結ぶ「絶対防衛ライン」を敷き、連邦軍の侵攻に備えた。そしてソロモン海戦を経て、連邦艦隊はア・バオア・クーの攻略を決定し、史上最大規模の宇宙艦隊戦が展開された。

この戦争における主力兵器は、言うまでもなくMSを始めとする機動兵器であり、その開発能力そのものが戦闘の趨勢を左右するほどの存在となっていた。MS-14ゲルググが実戦に投入されたのは戦争末期の約一ヶ月間だけだったため、戦闘に与えた影響は微々たるものだった。しかしグルググは、間違いなくこの期間に量産されたMSの内でもっとも優秀な機体であり、あと一ヶ月配備が早ければ、歴史を振り替えていただろうと想えられている。また、この機体には、開発当初から汎用性広大のためにいくつかのバリエーションが存在しており、その先見性と機体完成度の高さは破格のもので、その上で最高水準の生産性も併せ持つ。MSはゲルググでひとつ目の到達点に達したとさえ言われている。その完成度の高さから、後のMSに与えた影響は計り知れないと言われている。

# MS-14A GELGOOG



- ①モノアイカメラ  
②エクストラスラスター  
③ショルダージョイントアーマー  
④ショルダーアーマー  
⑤熱核ジェットユニット  
⑥スカートアーマー  
⑦コクピットハッチ  
⑧デタッチャブルホルダー  
⑨マルチブルダクト

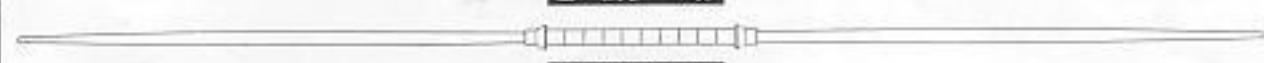
- ⑩エルボージョイント  
⑪マニピュレーター  
⑫インテーク／ノズル  
⑬ダクト  
⑭ハイブリッドセンサー／ニージョイント  
⑮メンテナンスハッチ  
⑯オフションポート  
⑰エクストラポート  
⑱メインスラスター

- ⑲サブスラスター  
⑳バックパネル  
㉑レッグスカートアーマー  
㉒ニージョイントアーマー  
㉓フットジョイントアーマー  
㉔プロペラントタンク  
㉕ベクタードスラスター  
㉖サイドスラスター

- ㉗サイトスコープ  
㉘ターゲットセンサー  
㉙データ／ワイヤーフライヤー  
㉚ビームハルバートユニット  
㉛マルティームジェネレーター  
㉜フィックスドスラスター  
㉝スコープマウント  
㉞バレル  
㉟パワーコンテンサー

- ㉟バイポット  
㉟グリップ  
㉟トリガー  
㉟マズル  
㉟ビームトラッカードロッパー  
㉟シールド  
㉟エヴァポーションエリア  
㉟ビジョンスリット

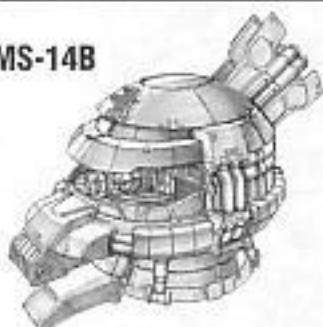
注) この機体は、グラナダのドルバ工廠で建造され、宇宙世紀0079年12月20日付けてア・バオア・クー守備隊に配備された機体です。  
ただし、ビームマシンガンは、L(ラグランジュ)4方向監視部隊キリング中将麾下の工場施設マンムットから転送されたものです。

**ビームサーベル****ビームナギナタ****ビームマシンガン****シールド**

## HEAD UNIT



MS-14B



MS-14C

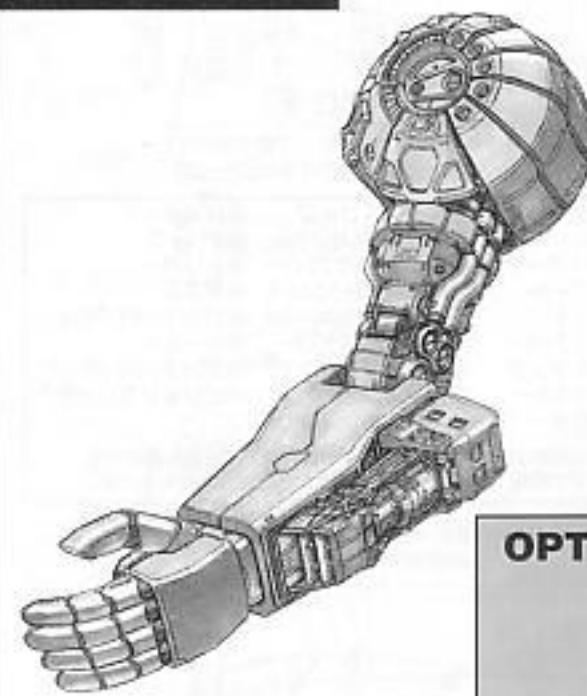


MS-14A

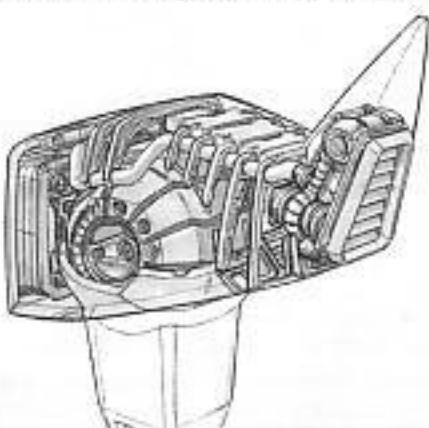


MS-14の頭部モジュールは、指揮官機並みの通信機能を持ち、高性能なセンサーの複合体となっている。また、ザクでは露出していた動力伝達パイプなどの各部品を内装としている。

## ARM UNIT



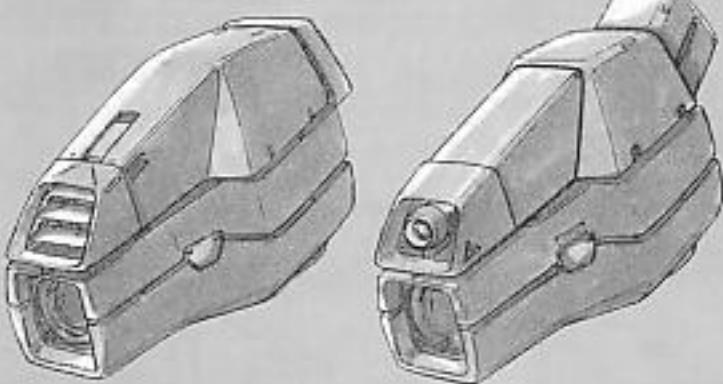
肩部に装備されているショルダーアーマーは、関節の保護とともにサブスラスター単位としても機能する。また、腕部に装備されている熱核ジェットユニットは、地上戦を想定した補助推進ユニットであり、コロニー内戦闘でも効果を発揮した。



ゲルググの各関節部分に採用される駆動装置は、ザクと同程度の能力でさらに小型化、高速化されている。機体そのものの反応速度が改善されているため、機体の運動性も飛躍的に向上している。ただし、ビーム兵器へのエネルギー供給系統なども内装されているため、全体的なボリュームはほとんど変化していない。

また、腕部に装備される熱核ジェットユニットは、基本的には地上戦用の装備であり、コロニーなど大気が存在する無重量領域では有效ではあったが、空間戦においてはデッドウェイトであることに変わりはない。宇宙空間での適用が確定している機体に対しては、補助的な追加武装や防衛装備などが施されていった。

## OPTION UNIT



大気圏内用補助ジェット

近接防衛用ビームスポットガン

## ! 注意

## 必ずお読みください

- とがった部分がありますので、8才未溝のお子さまには絶対に与えないでください。
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- 接着剤を使用するときは、接着剤の注意書きをよく読んでご使用ください。

## (組み立てる時の注意)

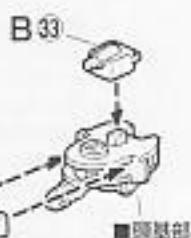
- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

このキットには接着剤は入っておりません。ディティールアップパーツを搭載する場合にはプラスチックモデル専用接着剤を別にお買い求めください。

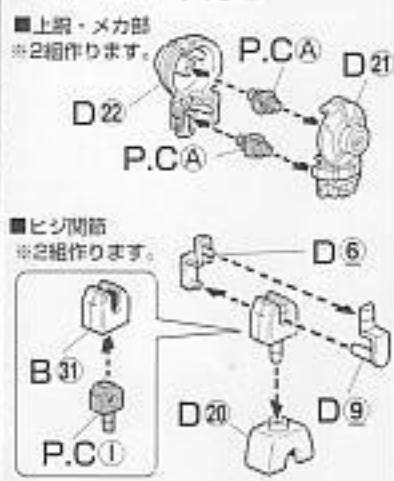


## ① Head

&lt;頭&gt;

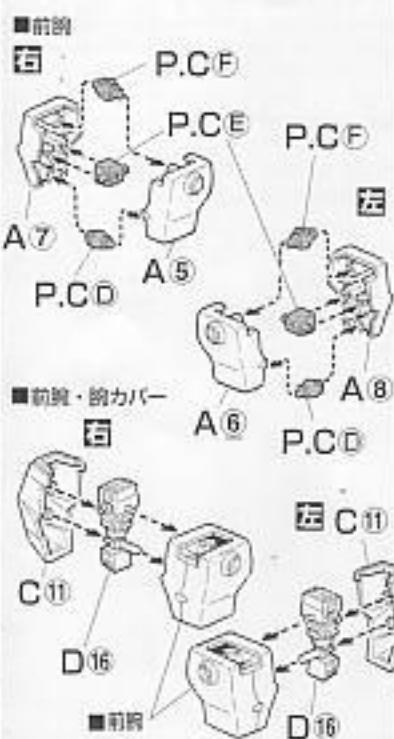
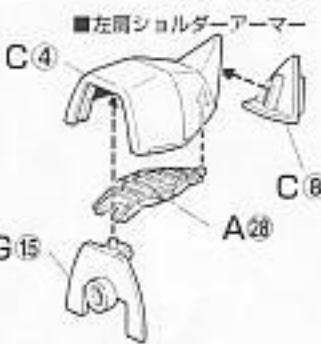
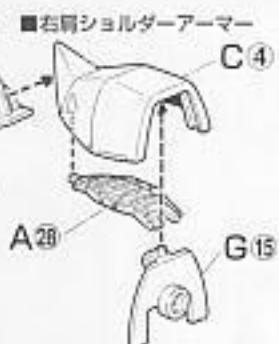


## L16とL17



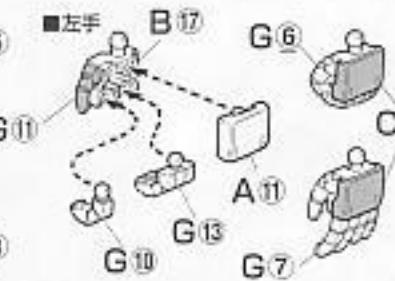
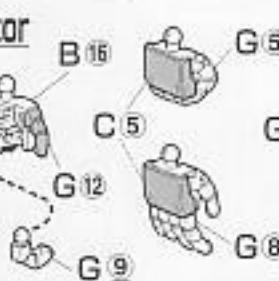
## ② Shoulder

&lt;肩&gt;



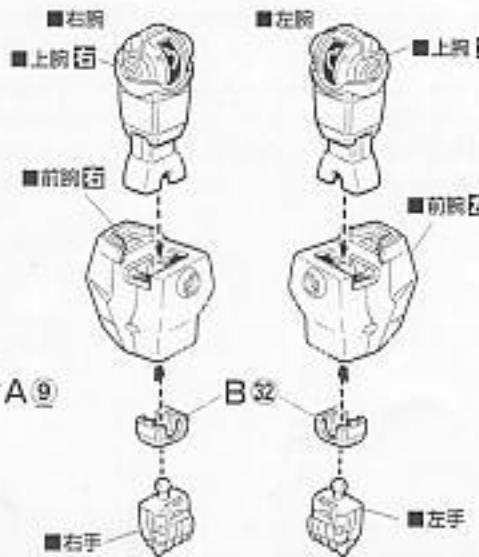
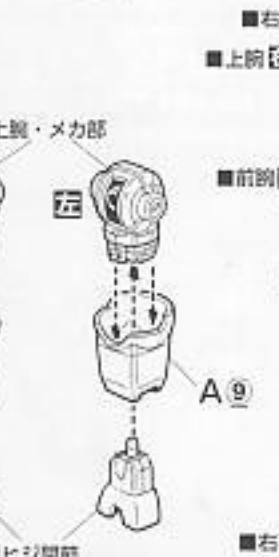
## ③ Manipulator

&lt;手&gt;



## ④ Arm

&lt;腕&gt;



# FIGHT'S ON

Documentary Photographs

## FINAL PRODUCTION



## MARKING

シールドには特殊印刷で、マークを印刷。機体各部をリアルに再現するマーキングシールをセット。塗装する方には、形式番号等のマーキングを要望の高いガンダムデカールで再現しました。



ジオン公国最後の量産型MSであるMS-14A ゲルググ。その先行量産型が戦線に姿を現したのは実に終戦直前1カ月にも満たない時期であった。量産ラインからロールアウトしたての機体が戦場に送られた時、既に連邦軍の先鋒はジオン軍最終防衛線の一角を構成する宇宙要塞ア・バオア・クー砦に進っていた。1年に及ぶ戦争の経験は既に決しようとしていたが、起死回生を図るジオンは宇宙空母ドロスを要塞防衛の旗艦に、動員可能な機動兵器全てを投入し、まさに最後の防衛線を構築した。

## THE KEEP

戦況挽回の切り札として放たれたソーラ・レイにより艦隊の約半数を失った連邦軍ではあったが、連邦軍MS艦隊はジオン内部の指揮系統の乱れに乘じ混戦の中、要塞外壁にとりついた。船体を寸断されたジオンに相応的な筋肉感勢を保持する力は既に無く、孤立し点在する拠点での遭遇戦を繰り返すジオンMS艦隊は各個撃破により劣勢を強いられ、機動性を確保した連邦の機攻部隊は要塞深部への突入を果たした。最終防衛の砦であったア・バオア・クーは既に斯末間に既にジオンの落城と化していた。



## LAST GUARDER

その機体性能においてガンダムをも凌ぐとさえ言われたゲルググではあったが、1年に及ぶ戦争で多くの歴戦のパイロットを失った防衛隊には最新鋭高性能機の能力を活かし得るだけの人材が決定的に不足していた。慣熟訓練も不足する状況下で新兵に預けられた多くのゲルググは首脳部の階級を満たす結果を上げるには到底至らなかった。確かに強ったエースパイロットによる戦果も戦況を緩和には至らず圧倒的な物量を誇る連邦に対し防衛態勢は各所で破綻を來した。



## DETAIL UP

1/100 MS-14A量産型ゲルググをさらにリアルに仕上げたい方は、14ページを参考にして、ディテールアップパーツを接着してください。  
ディテールアップ用のパーツを接着する場合には、接着剤の付けすぎに注意してください。

## FRONT VIEW



## PAINTING

よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。  
塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

- 本体胸部分などの塗装色。濃緑色 (2) (80%) + オリーブドラフ (2) (30%) + ホワイト (10%)
- 腕、脚、頭部などの塗装色。ニュートラルグレー (70%) + ホワイト (20%) + グレークリーン (10%)
- シールド外側やビームサーベルなどの塗装色。イエロー (70%) + オレンジイエロー (30%)
- 国旗部分やバーニアなどの塗装色。ニュートラルグレー (80%) + ブラック (20%)
- 頭やビームライフルなどの塗装色。ジャーマングレー (50%) + ミッドナイトブルー (50%)
- シールドの塗装色。ネーピーブルー (70%) + ブルー (30%)

## MAINTENANCE MODE



▶ 頭部のモノアイ基部等のメカニズムを再現。  
▶ 動力パイプはメッシュパターンのパイプパーツを使い、リアルに再現。



▶ B型装備 (MS-14B) のバックパックや脚部バーニアノズル等の動力部をリアルに再現。

## Explanation

### Parts name of MS-14A

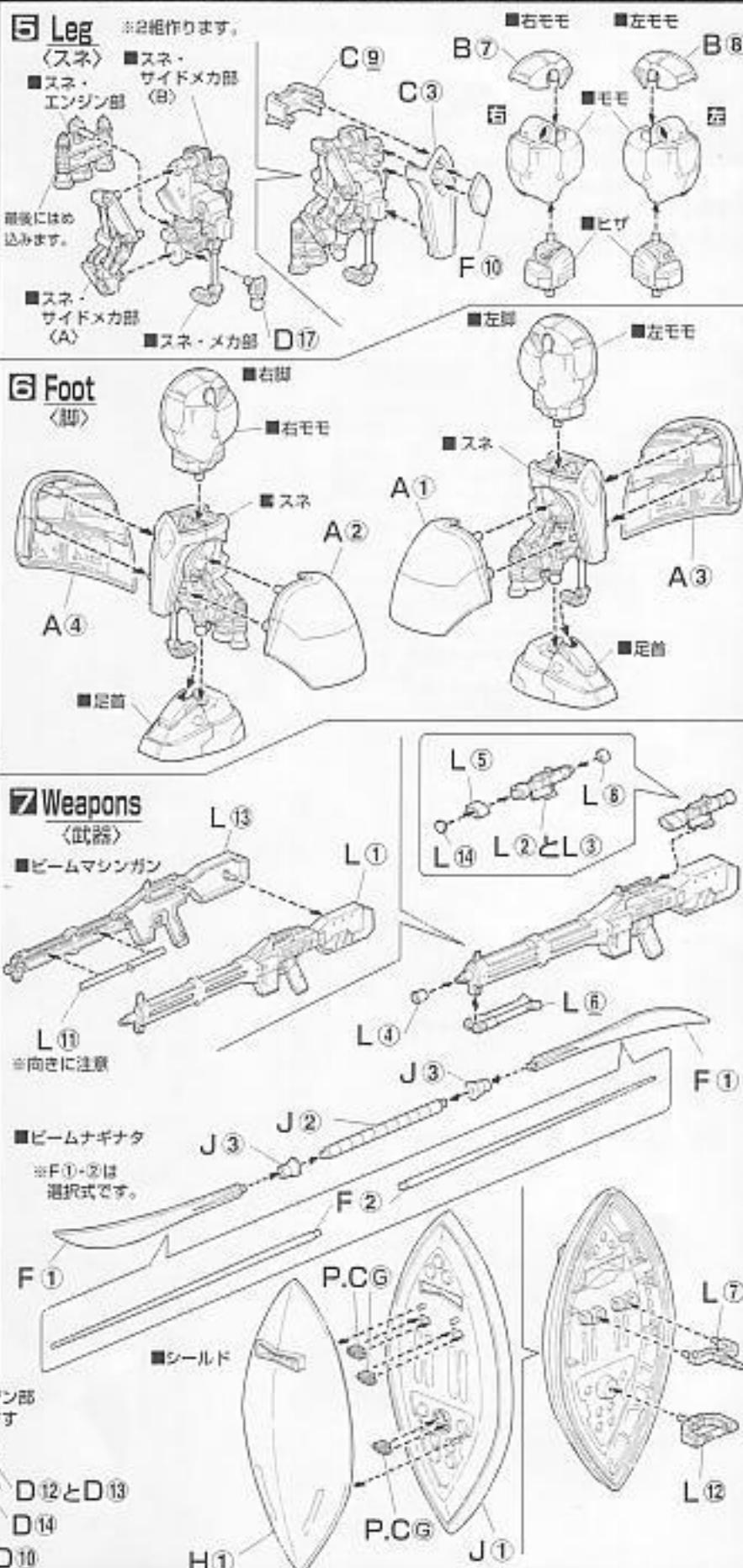
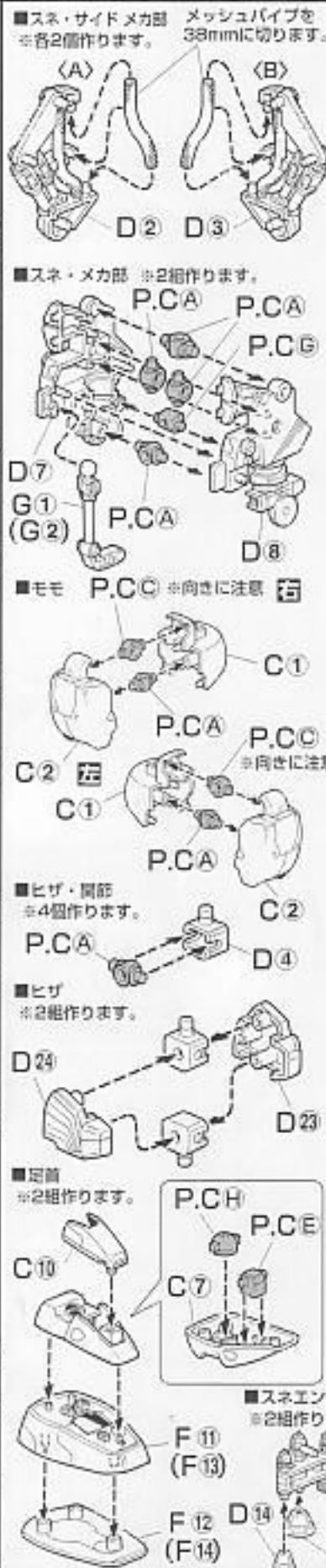
### MS-14A Snap Shot

### Head & Arm Unit

### Leg & Weapons

### Body

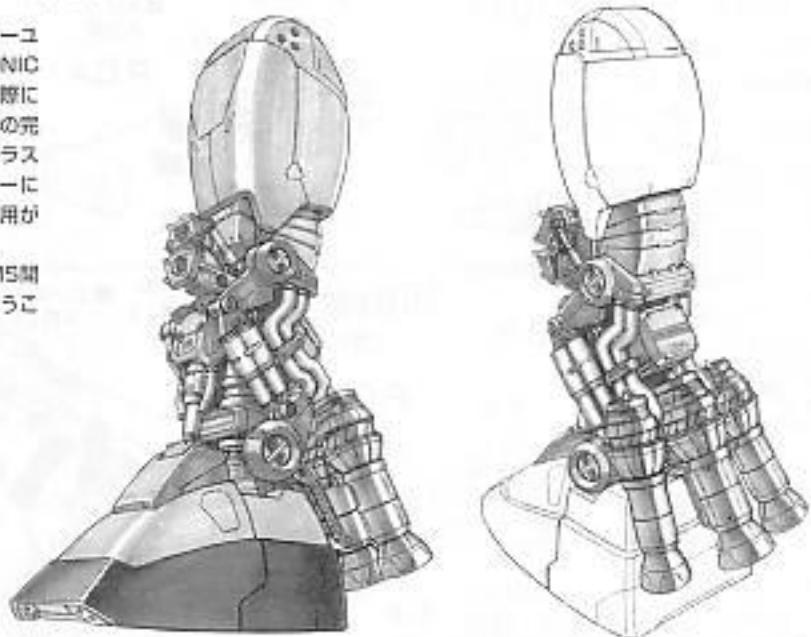
### Final Assemble & Parts List



## LEG PARTS

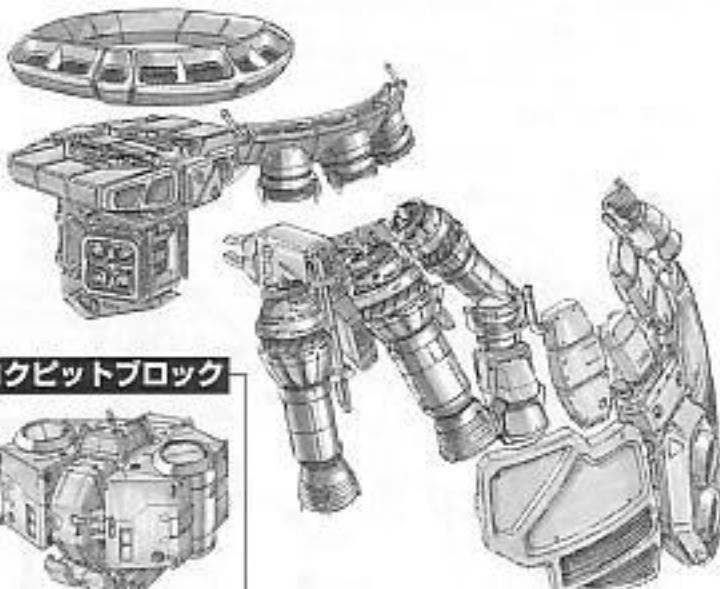
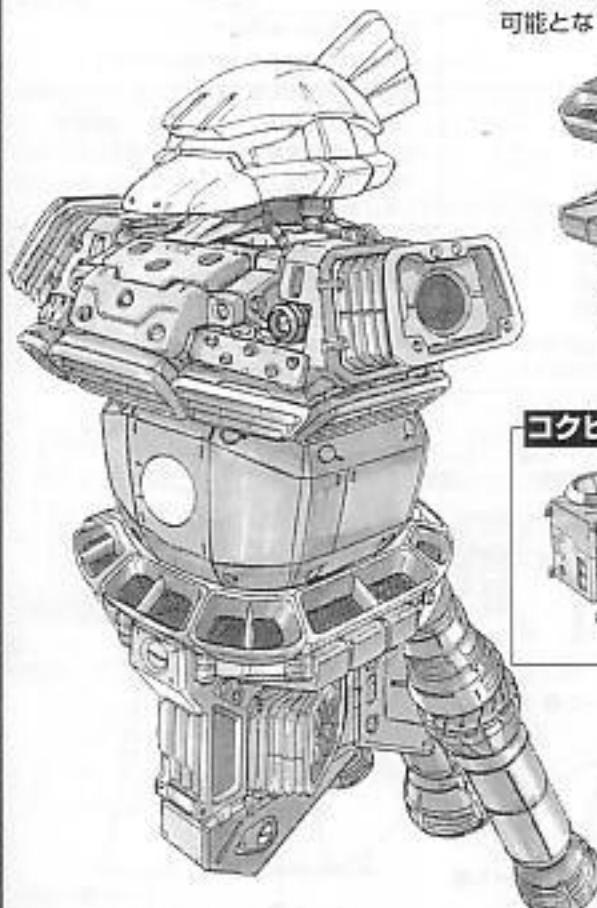
06R系の直系ともいえるゲルググは、R系と同様、脚部全体を巨大なバーニアスラスター単位と考えている。また、06R-2型での実戦データをもととして、さらなる高性能化が計られている。

ゲルググの脚部に装備されるバーニアスラスター単位は、当初、MS-11用に開発されていたZIONIC社製品がそのまま汎用される予定だったが、実際にそのユニットは06R-2型に使用されてから機体の完成までの間に改良が加えられることになった。スラスター出力の向上のため、腰部スカートアーマーに06R系のZIMMAD社製バーニアのノウハウの採用が決定し、改めて共同開発されることになった。このことからも、ゲルググは事実上、公国軍のMS開発のノウハウを秘めているMSだということができる。



## BODY MODULE

ゲルググのボディモジュールは、ザクと比較してコクピットブロックと主動力炉の配置などが抜本的に見直されている。また、水陸両用MSなどに採用されていた機種をベースとするジェネレータはA型用に新造されることとなり、冷却装置の刷新とあいまって、さらに安定した高出力稼働が可能となっている。



コクピットブロック



ゲルググの基本構造は、通常のRXタイプのMSに似て、ボディモジュールを大きく三つのブロックに分割している。これは機体の運動性を高めるためにも有効であったが、実際には、パイロットの生存性を高めるために採用された構造であった。さらにこの分割構造は、生産性や整備性の面からも歓迎された。

この構造によって、ゲルググは各部位ごとに生産拠点を分散させることができとなり、「工業製品」としても非常に優秀なものとなってしまったのである。さらに、各部位が独立しているから全体が有機的に運動できる設計であったため、各パーツごとの改造や改造なども、既存の機体に比べて飛躍的に簡便となつたのである。

Explanation

Parts name  
of MS-14A

MS-14A  
Snap Shot

Head &  
Arm Unit

Leg & Body

Weapons

Final Assembly  
& Parts List

## Explanation

## Parts name of MS-14A

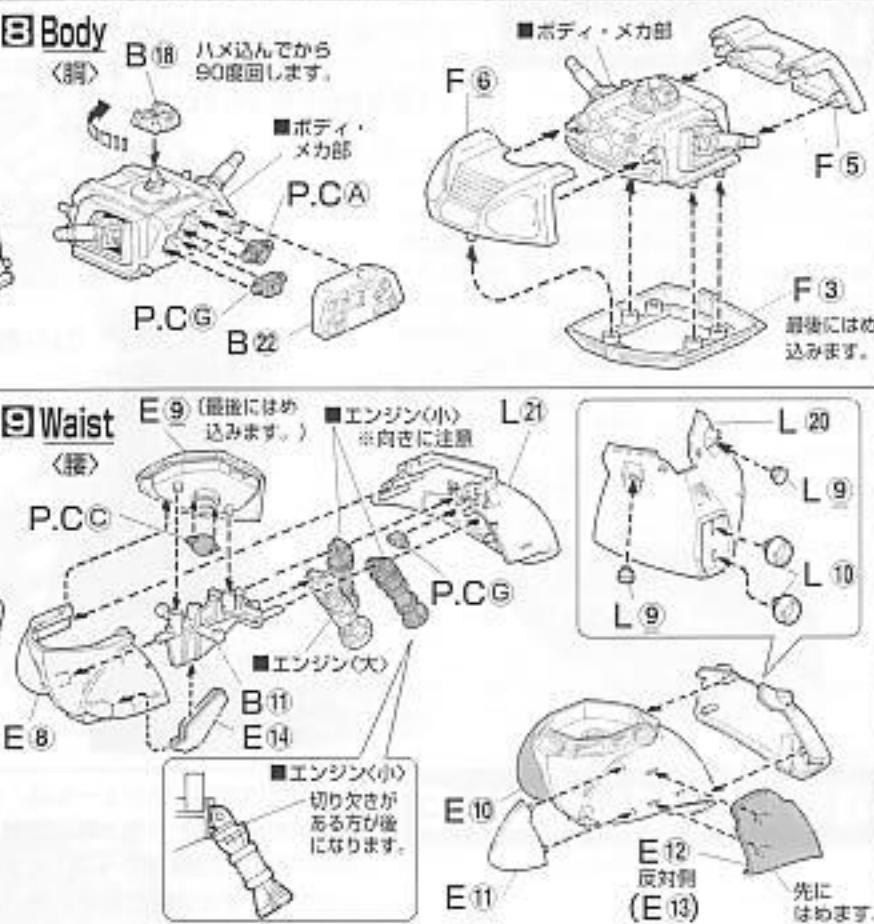
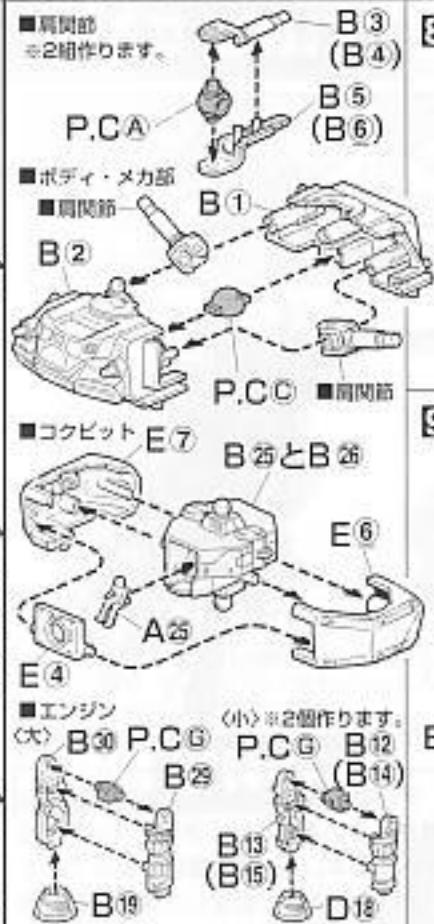
## MS-14A Snap Shot

## Head & Arm Unit

## Leg & Weapons

## Body

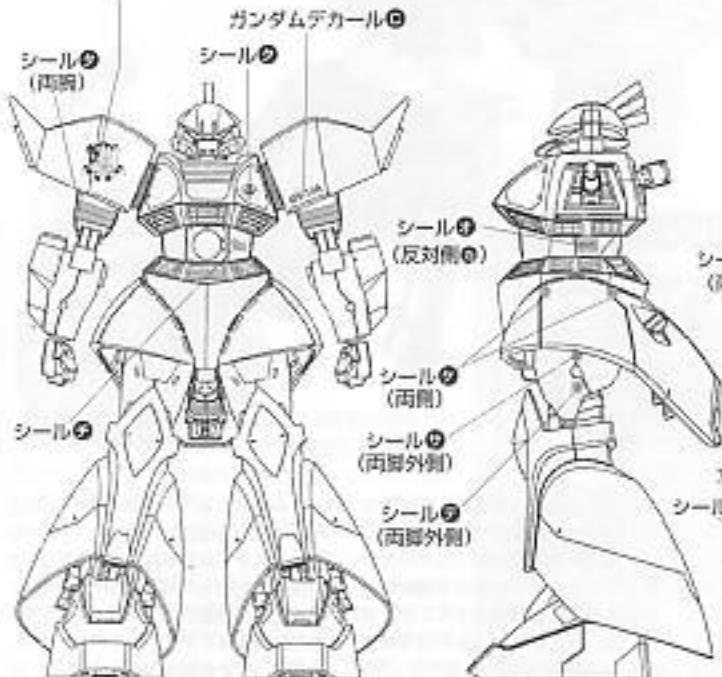
## Final Assembly & Parts List



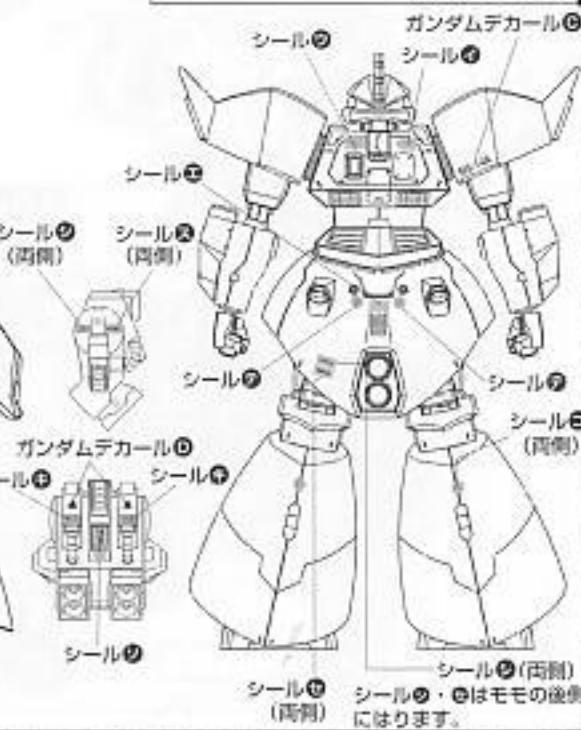
**10 Seal**  
<シール>

下の図を見て、ガンダムデカールやシールのはる位置を確認してください。  
余ったシールやガンダムデカールは、好きな所にはってください。

ガンダムデカール①



- ガンダムデカールのはりかた。
  1. 転写するマークを大まかに切れます。
  2. 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
  3. シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。



## EXTRA THRUSTER

### MS-14A バーニア増設タイプ



ゲルググは非常にシステムティックな設計思想に基づいて開発されていた。単純な例で言えば、レンズや照明装置と完璧にリンクする一眼レフカメラなどに比定できるだろう。言わば「ゲルググ」という工業製品は、装甲一枚に至るまで徹底的にデータリンクしたコンポーネントベースなのである。

だからこそ、戦争末期の一ヶ月にも満たない期間で、機体毎に異なる実験データのフィードバックを蓄積することが可能となり、多種の派生型やマイナーチェンジが生み出されたのである。特に、リアスカートアーマーにスラスターを追加装備したタイプは、第二期生産型以降の標準となり、その基本構造は、JG型やF型を始め、後に開発される多数の機体にも相続されることとなる。

## WEAPONS

ゲルググはビーム兵器の標準装備を前提として開発された。しかしビームライフルそのものの安定供給が可能となったのは、終戦に至るわずか2週間に過ぎないとも言われている。そのため部隊や工廠、あるいは師団単位で独自の武装も開発されていたという。そしてこの機体は、それらを充分に駆使したのだ。



ビームマシンガン。パルス状のビームベレット弾を連続して射出する。戦争末期に開発され、主にJG型が携帯することが多かった。



ゲルググ専用のビームサーベルユニット。両端からのビーム生成が可能で、電刀（ハリバート）状のビームを形成することもできる。



ゲルググ専用のシールド。特殊なコーティングが施されているため、実体弾のみならずビーム兵器にもある程度耐えることができる。

## Explanation

## Parts name of MS-14A

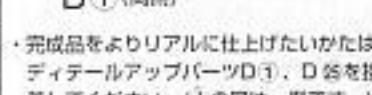
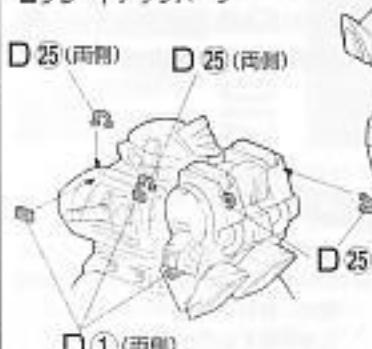
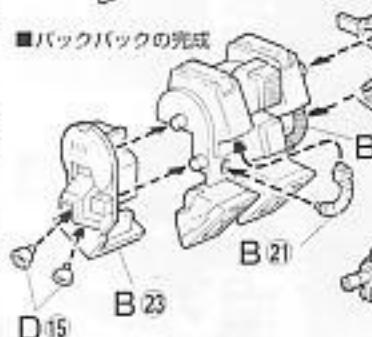
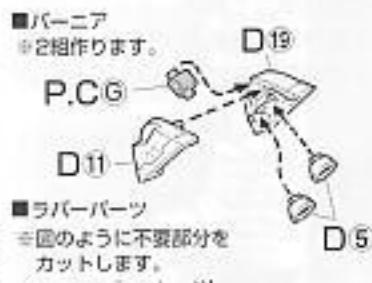
## MS-14A Snap Shot

## Head & Arm Unit

## Leg & Weapons

## Body

## Final Assemble Sparts List



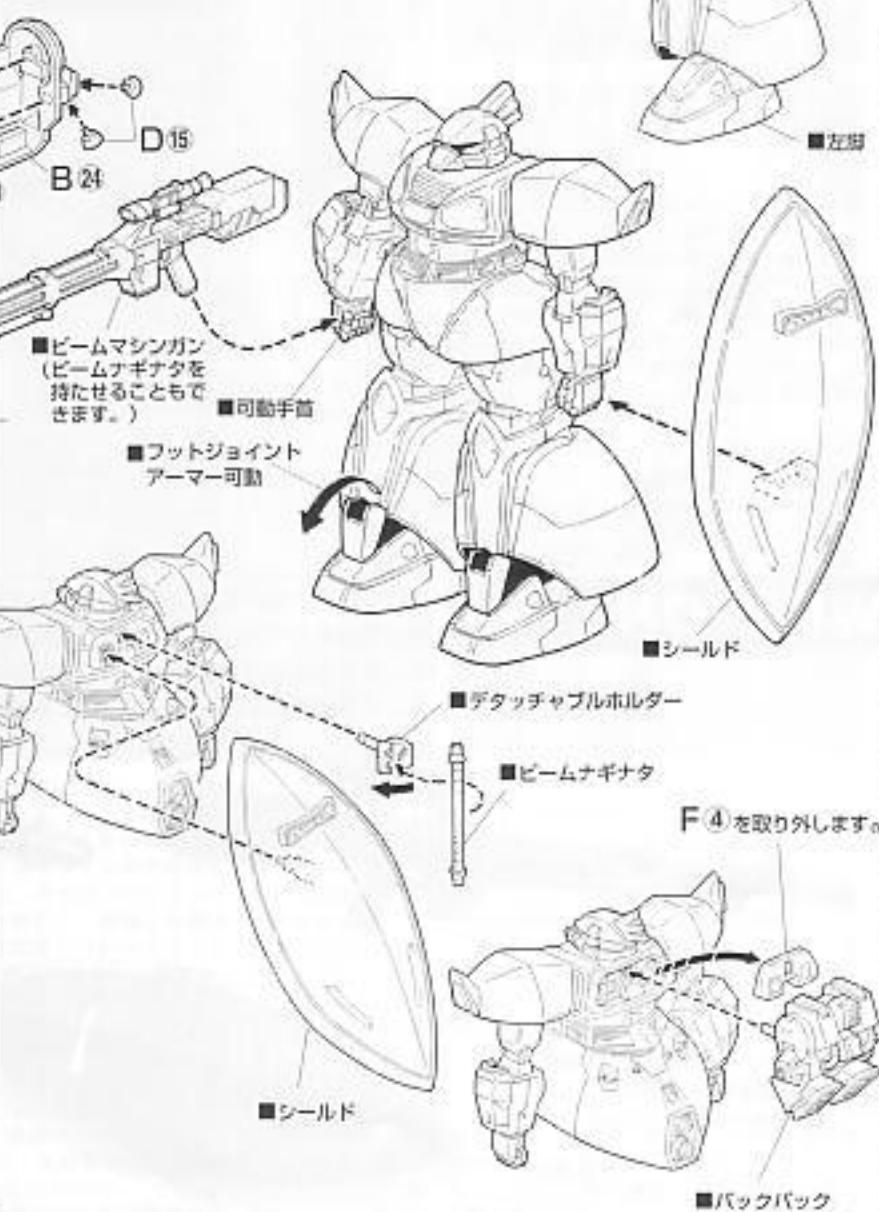
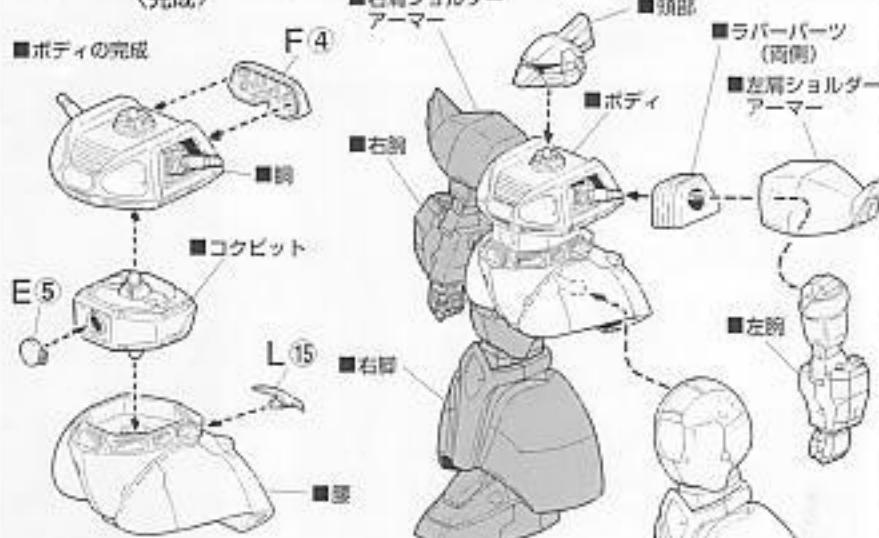
・完成品をよりリアルに仕上げたい場合は、ディテールアップパーツD①、D各を接着してください。(上の図は一例です。)

・あまついたシールや、ガンダムデカールは好きなところに、はってください。

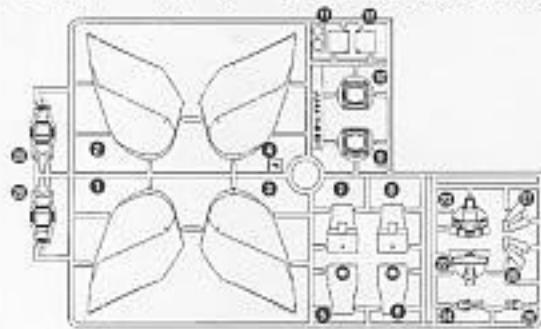
・A部は、お好みの場所にかざってください。

## II Final Construction

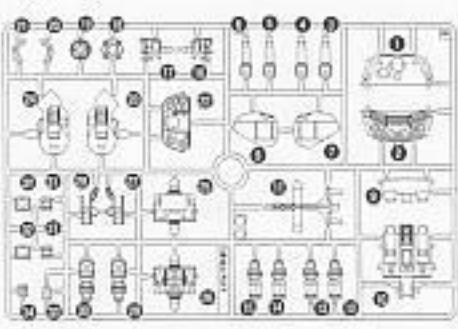
〈完成〉



## パーツリスト A/パーツ (④⑤⑥⑦は使いません。)



## B/パーツ



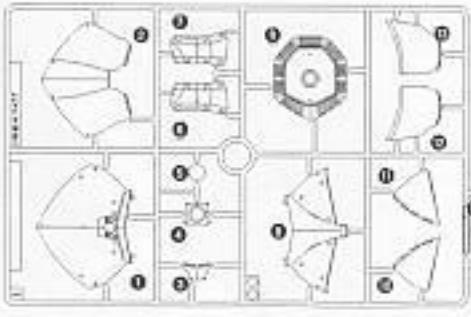
## C/パーツ (2枚)



## D/パーツ (2枚)



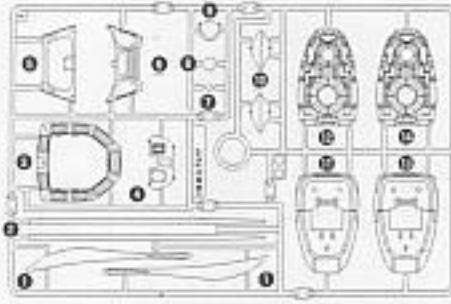
## E/パーツ (①②③は使いません。)



## G/パーツ



## F/パーツ (④は使いません。)



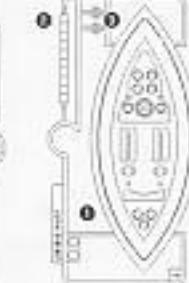
## I/パーツ



## H/パーツ



## J/パーツ



## PC-111 (2枚)

A…5個 B…4個 D…1個 F…2個  
H…2個 I…2個 J…2個は使いません。

マーキングシール…1枚 ガンダムデカール…1枚  
メッシュパイプ…2本 ラバーパーツ…1個

## (お買い上げのお客様へ)

部品をこわしたり、なくした時は「部品注文カード」に必要な部品の番号・数量をはっきり書いて切り取り、封書（裏面にお客様のお名前、年齢、ご住所を明記してください。）にて、郵便局員または定額小為替で下記までお申し込みください。代金は部品代（1個40円×個数）+郵送料（120円）+為替手数料（金額によって異なります）です。為替証券は無記入（白紙）で同封してください。なお、部品の形状・重量で郵送料に過不足が生じるときがあります。部品発送の際に120円を超える時は不足分を請求、120円以下の時には残額をお返しいたします。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封書にてお送りください。良品と交換させていただきます。（ラバーパーツは200円です。）

■申し込み先 (株)バンダイ静岡工場 お客様相談センター・部品係  
〒424-8735 静岡県清水市西久保305 TEL0543-65-5315

1997.9/T-ON

部品注文カード 59290-3000

1/100SCALE MGシリーズ  
MS-14A 量産型ゲルググ

必要な部品の番号・数量をかく

●注された理由(□で囲む)にわざなくした

部品の注文は「普通為替」か「定額小為替」でお願いいたします。  
'97.9



協力：ホビージャパン



ジオン公国軍 汎用モビルスーツ  
MS-14A 「量産型ゲルググ」  
1/100SCALE  
マスターフレードモデル

**MS-14A GELGOOG**  
THE GENERAL PURPOSE MASS PRODUCTION MOBILE SUIT

Scanned by DaLong.net